平成 26 年度第 2 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時　平成 26 年 12 月 11 日（木）　10：00～11：30
○会場　宇都宮市冒険活動センター　会議室
○出席者氏名

・塚原　和哉委員　（市小学校長会）＜副会長＞
・平野　洋一委員　（市中学校長会）
・五十嵐市郎委員　（市子ども会連合会）
・森山　公子委員　（市ﾎﾞｰｲｽｶｳﾄ･ｶﾞｰﾙｽｶｳﾄ連絡協議会）
・村上　敬吾委員　（県キャンプ協会）
・平野　智之委員　（宇都宮大学）＜会長＞
・沼尾　順市委員　（篠井地区ゆたかなまちづくり協議会）
・藤田　政美委員　（県林業センター）
・坂内　剛至委員　（ネイチャープラネット）
・入江　尚見委員　（公募）
・芥川　一男委員　（公募）

（事務局）坂野　忠所長　　黒須　正宏副所長　　稲澤　正明指導主事　　矢野　学指導主事

○欠席者氏名
馬上　剛委員（市ＰＴＡ連合会）
相田美智子委員（市レクリエーション協会）

○公開　（傍聴者の数　0 人）

１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
（１）　報告事項
①　平成 26 年度事業報告について（ア 学校受入事業，イ 主催事業，ウ 一般受け入れ事業）

事務局　：　（資料にそって説明）
会長　　：　学校受け入れに関して説明があったが，ご意見，ご質問はあるか。
芥川委員：　ナイトプログラムについて質問ですが，キャンプファイヤーは若い先生は体験がないのか。年齢的に高いとキャンプ体験をしている。今日の話を聞くと若い先生は経験が少ないとのことだが，現実はどうなのか。先生になる人で経験がない人が多いのか。
事務局　：　統計を取っているわけでないので，詳しくは分からない。私の経験では，大学生のとき夏休みに任意でキャンプを行った。そのときがはじめてのキャンプファイヤー経験であった。私以上に分かっている学校現場の塚原校長先生や平野校長先生に現状をうかがいたい。
芥川委員：　是非，どのようにすすめているか現場の声を聞きたい。
平野委員：　私の経験では，菅沼に子どものときに行った。教師になってからは，菅沼や那須甲子でやった経験がある。若い先生も同じようにボーイスカウト等で行った経験があるものもいるが，経験は少ない。また，やったことはあっても盛り上げ方に自信のない先生方も多い。今後も研修に取り入れていただき，教えていただければと思う。
塚原委員：　キャンプやキャンプファイヤーのブームはあったが，集団で行った経験は少ないのではないか。また，キャンプファイヤーを行う場面も少なくなっている。
芥川委員：　アウトドア人気もあって，家族で体験していることもあるのではないか。私の経験から，小さいときに火をおこしたり，火のまわりで遊んだことが，大人になってからアウトドアにつながっている。子どものときの経験は大切で大変良いことであると考える。そういう点で，先生がここに来て，キャンプファイヤーを体験していくことは，良いことであり，力を入れていただきたい。
会長　　：　大学生も減っている。昔に比べ，お金を使うところが変わってきている。教員希望の学生でも毎年の野外教育で 30 名の学生が参加しているがそれだけである。野外教育の価値を知らずに教員になる学生が増えてきている。
森山委員：　ガールスカウトでは，野外活動が基本である。指導者に関しては，今はガールスカウトあがりでない人が多くなっている。そのため，キャンプファイヤーをする際，どうやったら良いか分からない指導者が多くなっている。分からないので，教えて欲しいといったことが良くある。やり方に関しても，子ども会でやったことがあるが，ワイワイ踊って楽しかったといった印象のみ残っている。我々の行っているものは，セレモニーの場面があり，みんなで盛り上がる場面，そして静かに落ち着かせる場面といった流れをつくってやっている。しかし，その流れを理解している指導者が少なくなっている。

会長　　：　価値が分からず終わってしまうことが多いとのこと。
森山委員：　分からない人が多いことが事実である。
会長　　：　問題があることでしょうが，事務局としてはどのように考えるか。
事務局　：　先生方の反応ですが，統計的なことを伝えると小学校では，夜の集会活動が 1 泊のときは，2 校だった学校が，平成 23 年度から 2 泊になって増加している。数字の推移からも先生方が前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。準備の労力はかかるが，それだけの効果を実感しているからであろう。チャンスがあれば，先生方は子どもたちにやらせたいと思っている。センターとしては，今後も研修会等で取り上げていきたいと思う。
五十嵐委員さんは，子ども会でここを使ってキャンプファイヤーも行っている。会議室も利用しながら，毎回盛り上がっているようである。
キャンプ協会，ガールスカウト，子ども会等での経験を伝えていただけると，これからナイトプログラムを紹介していくなかで有益であると考える。是非，紹介願いたい。
村上委員：　ナイトプログラムに関して，とっつきやすいものに星座観察やナイトハイクがある。夜空に浮かぶ星空に感動をもっていない人が多い。体験をするとその感動が伝わると思う。ナイトプログラムの充実を考えるなら，そこも充実させると良いのではないか。
会長　　：　ナイトプログラムに関して，他の団体の方はいかがか。
事務局　：　先ほどでは星座観察について，所長が子どもたちにレクチャーをしたこともある。
所長　　：　事前の学習ができる利点がある。秋から冬は，星空が見やすい。しかし，夏は，見ることが難しい。季節があるものである。4 年生で星空について勉強を行う。それを踏まえ，ギリシャ神話を取り入れ，話をしている。寒さもあったので，30 分目安に行った。
指導員の勤務の関係もあり，夜の活動は，学校へお願いしている。夜の活動に関して，キャンドルファイヤーなど力を入れて研修に取り入れて，盛り上がってきている。星座観察については，昼間行う研修では難しい。
平野委員：　これからも研修で経験させていただけるとありがたい。
教員の学年の年齢構成は 50 歳台が 4 分の 1，40 歳前後は 1～2 名。実行委員を立ち上げてまとめ計画を立てているのが，新採 2～3 年の先生が中心になって行う例が多い。先輩教員に相談しながら行っているが，若い先生はどうやって良いのか分からない。
これからも夜の活動だけでなく，他の研修も進めてもらいたい。
引率で来たとき印象に残っていることは，ホタルを見たことである。非常に良かった。
また，わんぱく広場に和ろうそくで学校名をつくって照らしたものがとても美しく強く印象に残っている。その際，生徒たちは，協力することの大切さも学んでいたようだ。
塚原委員：　学校の教員をしているものが，それほど自然体験が多いのかというとそうでもない。学校だからできることがある。学校で実施をするに当たっては，安心感が必要である。その活動をやることでねらいの効果にせまれるか。それが分かることが大切になる。
ナイトプログラムからは，少し離れるが，小学校で登山を選ぶ学校が増えていると聞く。取り組みにくい活動ではあるが，安心感が生まれたから多くなっているのであろう。先生自身の年齢が高くなっている。その部分に関しては，センター職員がつくことでカバーでき，さらにノウハウも持っている。それによって安心感が生まれている。
今後もセンターが広げたい活動があるのであれば，安心感という観点も必要である。
ナイトプログラムも同様に安心感があるともっと広がっていくのではないか。
五十嵐委員：　6 年生でキャンプを経験させている。子どもたちにキャンプでのスタンツをやらせてみたこともあったが，テーブルマジックをやっていた。それは，暗闇の中では，見られなかった。それもキャンプファイヤーを経験していないことの表れであろう。
キャンプファイヤーはこういうもので，スタンツはこういうものだと教えている。その中で，子どもたちのやりたいことも尊重し，部屋の中の良く見えるところでの出し物も行っている。火をつけ，消えていくまでを見せ，伝統的なキャンプファイヤーの流れを見せ，第 2 部として明るいところで出し物をするといった具合に行っている。フルートの演奏を行う者がでたりと，暗い中ではできないものあった。2 部構成で毎年行っている。
会長　　：　他にないか。
藤田委員：　課題として考えられることは，先生方の経験が少ないことである。きっとキャンプ協会の方々はノウハウを持っている。そのような方々から支援をもらって，プログラムにいかしていければよいのではないか。人材育成について，外部派遣をしてキャンプファイヤーを手伝っていただけることが，可能であるか。
事務局　：　学校には，こちら側で研修会を行い，経験を積んでもらっている。
学校の方でキャンドルファイヤーを保護者に声をかけて一緒にやることはあったが，センター側から声をかけたことはない。
会長　　：　では，広報の件についていかがか。

事務局　：　広く知っていただきたいと思っている。特に教育効果の部分では，以前新聞に載ったこともあったが，今年の内容を記事にするかは，マスコミ次第のところがある。
どういった方法が良いのか，ご意見をお願いしたい。

会長　　：　何か良い方法はないか。

入江委員：　学校のお便りの中にいれると保護者は目を通すのではないか。
先ほどいっていた所報は年に一度なのか。

事務局　：　年度末に一度，センターの活動報告ということで出している。センターから学校へ配信している冒険タイムズも活用していきたい。

入江委員：　難しいものでなく簡単な結果であれば，お便りの中にも入れられ，広める分には良い方法ではないか。地域では，回覧板があり，中高年の方は，回覧板は結構目にする。インターネットといった方法もあるが，興味がないと開かない。
キャンプに関しては，どのように申し込むか分かりにくい。特にインターネット情報では分かりにくかった。お便り等に入れていただくと申し込みが増えるのではないか。
知るきっかけが少なく感じる。アナログでも発信していただけると良いのではないか。

塚原委員：　関心が高まっているのは，ここに冒険活動教室でくる５年生である。
保護者説明会も事前に開かれるので，その説明会のときに配布用があって渡すことも効果的ではないか。高まりがあるときに渡したら良いのではないか。

芥川委員：　ここは，すばらしく，宇都宮の施設はすごいものを持っている。こんな良い施設を持っているところは，他にない。子どもが体験する先がどんなところか，全国的に見てもすごいということを伝えて欲しい。保護者説明会などの時にアピールしても良い機会と感じる。そこでの活動で効果がでている書類を見せること良いことである。

会長　　：　昨年講師としてセンターに来た日大の先生も全国的にすごい施設で，ここをアピールするべきだといっていた。

藤田委員：　一般の方に広めるには，マスコミは効果的であると考える。話題があるとき，ないときで載せてもらえる確率が変わる。新聞記者の方と近い存在でいると載せてもらえることもあるのではないか。

村上委員：　市で広報誌を出している。行事予定はでているが，成果はない。行事をやった成果を報告することも必要であると考える。広報する方と相談して，ここの施設だけでなく，結果を書いても良いのではないか。成果の報告の必要性について，協議されても良いのではないか。

会長　　：　つづきの報告をお願いする。

事務局　：　（資料にそって説明）

会長　　：　報告に関していかがか。

事務局　：　主催事業については，１０年来続いているものである。今後の新たな連携や共催等も探っていきたい。
今年からはじまったちびっこキャンプではキャンプ協会さんにアドバイスをいただき参考となった。ボーイスカウトやネイチャープラネットで行っている活動等を紹介していただき，今後の主催事業計画の参考にさせていただければと思う。

会長　　：　具体例から坂内委員いかがか。

坂内委員：　これまでの一般利用の取り組みについて，評価できるものと思う。気になったこともない。
今後の主催に関しては，ターゲットをしぼりこんでプログラムを展開してはいかがか。
うちでやっているものに女性だけを集めて女子会をやっている。ここは，教育施設なので，お母さん対象になるのか。また，イクメンという言葉があるようにお父さん方，おやじを育て，アウトドアのスキルをあげるなど，ターゲットを絞ったプログラム展開も面白いのではないか。

会長　　：　面白いのではないか。ガールスカウトではどうか。

森山委員：　ガールスカウトでは，指定のキャンプ場をなるべく使って欲しいということになっている。そのためセンターをつかう機会が少なくなっている。

五十嵐委員：　がんばって運営し，利用者が増えていることも報告からうかがえる。
しかし，要望として宇都宮の行事を重ねないで欲しい。市子連としてもイベントに協力したい気持ちはあるが，市内の行事にかぶっていると参加できない。
何もないときに主催事業を行って欲しい。宇都宮市として連携を図っていただきたい。
今年度のフェスティバルでは，お客さんが例年より少なく感じた。この時期，運動会とも重ねないで欲しい。宇都宮市内の運動会の日程も把握していただき，はずした日程にしてもらいたい。
また，話題にでた５年生の説明会のときに，センター利用に関する情報を配布資料に入れてもらうと身近なものとなり，利用者が増えるのではないか。

森山委員：　市の行事が重なっていることに関して，市長に直談判した。その回答は，1 つの団体だけだとお客さんを集めることが難しく，いろいろな団体が一同に介さないと無理がでるとのこと。10 月～11 月は，県の行事も多くなるので，重ならないようにすることは難しいところがある。

沼尾委員：　地元としては，今年のフェスティバルの日程は，良かった。どこに日程を設定しても他のイベントとぶつからないことはない。今年もろまんちっく村のイベントにぶつかっていた。お客を取られてしまったといったことにもなるが，この部分は，考え方で連携できるものになると思う。ろまんちっく村で，篠井でこういうことをやっていると宣伝してもらうと連携が図れ，お互いにとって良いことにつながるのではないか。
日程を決めるに当たって，イベントをさけることは難しいのではないか。
また，日程をずらすと，11 月は収穫祭，10 月上旬は運動会があったりと，10 月中旬下旬はやむをえない状況であろう。
内容に関してだが，今年は，まちづくりでピザを作った。育成会で行って 500 食売れた経験がありやってみた。今年は，打合せが不十分でピザ釜を事前に設置できなかったり，チラシに載せることもできなかった。来年度は，場所も考えうまく設営したいと考えている。喜んでいただける内容を地域としてもやっていきたい。
また，まちづくりとして，ここの山を利用したツアーを計画している。スタッフにも協力を得て実施しようと思っている。夏の時期を考えている。
山のコースの安全性については，コースの整備や足場の確保，雑草の除去などを市長に提案した。できていないところをもう一度やっていただけるよう再度伝えて改善が図られた。地元としてもここを利用したものを，広げて実施していきたい。

会長　：　キャンプ協会は，どうか。

村上委員：　やって欲しいと要望して実現した「ちびっこキャンプ」は，どうであったか。

副所長　：　心配していたことは，2 点あった。1 点目は人数が集まるか。その点に関しては，70 名以上の応募があり，反響があった。2 点目は，テント泊のこと。おねしょとホームシックにならないかの心配であった。4 人に 1 人の指導者が付く配置で行い，保護者にも事前の情報を得て，夜中に起こす子の対応をして，おねしょが 1 件，ホームシックになる子はいなかった。
野外炊飯では，子ども用の包丁を準備しカレー作り，山登りをして元気に帰っていった。はじめての事業ではあったが，うまくいった。

入江委員：　ちびっこキャンプに私の子どもも参加したが，宿泊の前にデイキャンプがあった。そこで心の準備ができていたようだ。泊まるときの様子もスタッフが手厚く，事前の準備も大変時間をかけていたようだ。アイスブレイクにも力を入れていて，保護者として見ていて安心した。夜寒くなるので，どうなるか心配であったが，スタッフも一緒に泊まると聞いて安心した。そのとき作ってもらったＴシャツは，今も大事にしている。また，手作りの杉板を焼いてつくった写真立ても大事に飾っている。
是非，来年も参加させたい。

村上委員：　こうして，リピーターが増えていくのでしょう。事前研修は良かったのではないか。

入江委員：　女子会，おやじの会も良いと思ったが，婚活はどうか。野外で，イニシアティブゲームや炊飯など，体を動かしながら自然の中でできることは良いと考える。キャンプファイヤーも盛り上がると思う。良い企画だと思う。将来，そのカップルに子どもができ，つながっていくので良いことである。

所長　：　民間では，良くやられている。食いつきも良いものである。婚活に関しては，メリットも需要もあると考える。しかし，学校利用の日程や対応を考えると新しいものを取り入れると何か削るといったようにやっていかないと職員が回らなくなってしまう。良いと分かっていても削ることが必要なことがある。

会長　：　時間が押してしまったが，協議事項に移る。

（２）協議事項

①　平成 27 年度事業計画について（ア　学校受入事業，イ　主催事業，ウ一般受入事業）

事務局　：　（資料にそって説明）

会長　：　協議事項について，意見はないか。

五十嵐委員：　安全について，お話があったが，市子連ではＫＹＴを事前に行っている。紙芝居を使って，坂に対する注意喚起などである。そのような方式をオリエンテーションなどで行ってはどうか。登山において，落石は避けられない。その中で，どう対応するかが大切。学校対応においても，ＫＹＴを用いたやりとりができ，目で見て分かるように示された方が，より安全が図れるのではないか。

芥川委員：　自然の中では，危険予知は非常に大切である。対策を知識として覚える。
落石では，声を出して，下の人に知らせることで，下の人は，上を見ることで避けられる。どう対応すれば良いかを伝えていくことが大切である。万が一のことも考えさせて，経験させる必要がある。

坂内委員：　危険箇所を把握しているでしょうから，ハザードマップをつくって，こういった危険があることを示しても良いのではないか。また，避難経路を含め，安全な場所を示すことも必要であると考える。

事務局　：　まさにその通りである。ご意見を反映していく。

所長　　：　安全があっての冒険である。万全の体制をとって，より安全な対策を取っていく。

会長　　：　これをもちまして閉会する。

副所長　：　次回開催は来年５～６月を予定している。近づきましたら，担当から連絡がいきます。
ありがとうございました。

５　閉　　会